

ドイツから 動物愛護事情便り



写真2A

今回、私はドイツ最南端に位置するラーベンスブルクという街の動物保護施設を見学してきました。見学は随時、出来ますが、その日は、一般公開にあたるオープンハウスの日でもあり、非常にたくさんの来訪者であふれ、この国の動物愛護に対する関心の深さがうかがえました。ボランティアによる、喫茶、軽食、バザーなどもあり、その売上げは、もちろん施設の大事な収入源になります。(写真1A,B,C) 施設は今年で40周年を迎えますが、5年前に改築されており、とても、明るく、清潔な施設に驚きました。施設は常勤スタッフ四人、実習生二人、その他のボランティアで、営まれています。この日、常勤スタッフの女性に、話を聞くことが出来たので、その内容を紹介させていただきます。

① 施設の収入源

市民の数×60セント(日本円で約60円)が年間の政府からの補助額になり、人口10万人のラーベンスブルクでは約600万円の補助額が支給されます。その他は、寄付金と今回のようなオープンハウス時の売上です。

② 現在の動物の頭数は？

犬10匹猫(子猫40匹、成猫60匹)、うさぎ、鳥、モルモットなどがいます。

③ ここにいる動物たちは、どのような経緯で、来たのですか？

大半は、近所の人々が、迷っている動物たちを連れてきますが、なかには、もちろん引越し先に連れていけないなどの事情で連れてくる飼い主もいます。そのような場合は、有料で、引き取ります。飼い主不明な場合は、21日間の待機期間があり、その後、飼い主が見つからなければ、飼い主希望者に、有料で譲ることが出来ます。もちろん、誰でももらうことができるわけではなく、飼い主希望者は、信頼出来る人間か、飼うことが可能な住宅環境



写真1A



写真1B



写真1C